令和４年 11 月 10 日

Flakea papillata ハギレゴケを本州で初発見

これまで国内では屋久島と奄美大島だけしか記録の無かった、熱帯性の地衣類の *Flakea papillata*（フラケア　パピラータ）が、鹿児島県（九州本島）と和歌山県、更に千葉県でも採集されていることが判明しました。日本産のこの地衣類について、産地以外の情報が全くなかったので、今回その詳細を明らかにするとともに、和名をハギレゴケとしました。本研究の成果は 2022 年 11 月 10 日に日本地衣学会の学術誌「Lichenology」（ライケノロジー）にて公開されました。

研究の概要

この地衣類は、アメリカの植物採集家の間では、そもそも地衣類であることさえ疑われ、シダの前葉体なのか、蘚苔類なのか、陸生藻類なのかといった疑問が持たれていました。それほど変わった地衣類とみられていました。これが日本では、鹿児島県の島嶼部（屋久島と奄美大島）から記録はあったのですが、産地の一つとして挙げられただけだったため、詳細については国内では全く知られていませんでした。一方、当館職員の原田は、九州（鹿児島県）と本州（和歌山県）でこの標本を採集していたことから、詳しい観察結果を多数の写真を掲載して報告しました。（後に、千葉県でも本種を採集していたことが判明しました。）

発表者名
原田　浩

本文の解説

本種がとても変わっているというのは、その形です。地衣体が非常に薄っぺらく、ごく薄い灰色（緑色や青みを帯びる）で、表面に皮層がなく、地衣類では他に似たものがありません。表面の細胞にはパピラ（ごく小さな突起）があるのも独特です。後者の特徴については、アナイボゴケ科の幾つかの属にも見られることから、本種を記載した Eriksson（エリックソン）は、中でも *Psoroglaena*（プソログラエナ。ムキミゴケ属）との関係を指摘していました。当館職員の原田は、この科を専門としていることから、各地の調査でもこの地衣類がないか気を付けていました。その結果、和歌山県と鹿児島県で採集することができました。しかし、分類学的所属の決め手となる子実体（地衣類では子器と呼びます）が世界のどこからも見つかっていないため、詳細な報告をするには至りませんでした。

近年になって分子系統からアナイボゴケ科における所属が支持され、系統上の決着がついたことを知りました。そこで、今回、研究を再開し、日本産本種について多数の写真を使って詳細に報告しました。

和名については、地衣体がとても薄く、小さな布の切れ端のような印象を受けることから、ハギレゴケと名付けました。
なお、本稿の受理後（掲載が決定した後）に、当館に収蔵している千葉県産標本の中にも本種を見出し、千葉県にも生育していることが明らかになりました。

図１．和歌山県産のハギレゴケ（実体顕微鏡下）

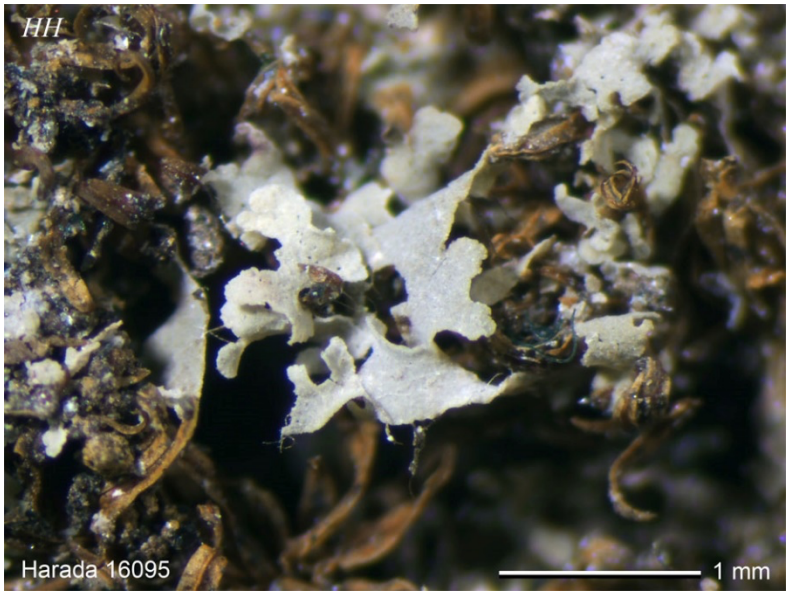
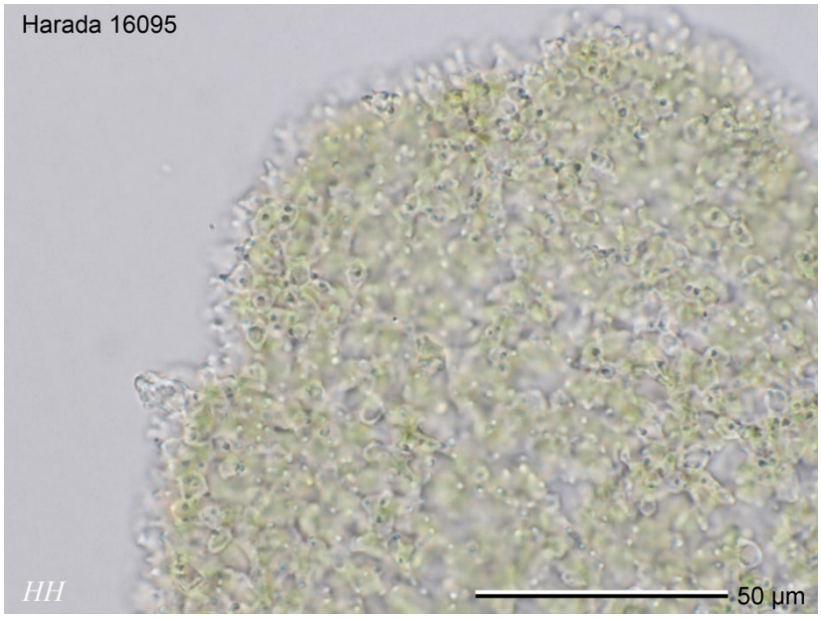


図 2．地衣体の先端部。表面のパピラを示す。



この地衣類の画像は、デジタルミュージアムのコンテンツ「日本の地衣類（ウェブ図鑑）」にも掲載しています。種名（学名）から探してください。
https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/special/chii_nihon/nihon-top.html

発表雑誌
雑誌名：「Lichenology」（ライケノロジー）、20 巻 2 号、41-48 ページ
論文タイトル：日本地衣類誌（８）．*Flakea papillata* ハギレゴケ
著者：原田　浩

関連する事業・研究課題
普遍研究課題「地衣類の多様性に関する研究」・科研費基盤研究（C）「日本産地衣類の総合的なデータベースの整備とウェブ公開」（仮題番号２１Ｋ０１００６）

お問合せ先
千葉県立中央博物館　上席研究員　原田　浩
〒260-8682　千葉県千葉市中央区青葉町 955-2
TEL：043-265-3111
E-mail：　harada@chiba-muse.or.jp